

平成30年度日本語指導が必要な児童生徒支援研修会（静岡県御殿場市）

検証実施機関（団体）：静岡県教育委員会 御殿場市教育委員会
静岡県教育委員会 静東教育事務所地域支援課 日本語支援コーディネーター 虎谷千里

1 検証対象の研修・授業について（該当するものにチェックを入れてください。）

養成／研修	<input type="checkbox"/> 養成 <input checked="" type="checkbox"/> 研修
タイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 基礎教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育 <input type="checkbox"/> 支援員教育
研修・授業日（期間）	2018年 7月 6日～ 年 月 日
総時間数	2時間（ 時間× 回）
研修・授業科目名	平成30年度日本語指導が必要な児童生徒支援研修会（静岡県御殿場市）
受講者	人数（ 41人） 年齢層：20代（7）名 30-40代（19）名 50代（12）名 60歳以上（3）名 外国人児童生徒等教育の経験：18名 日本語指導（成人対象を含む）の経験：アンケート項目にないので不明

2 地域及び学校現場の外国人児童生徒等の受け入れの状況

(1) 当該自治体における外国人児童生徒等の数・分布とその民族背景

御殿場市小学校 87人（内 日本国籍13人）

御殿場市中学校 56人（内 日本国籍12人）

要日本語指導の外国にルーツを持つ子どもたちは御殿場市内数校に集中
国籍は多国籍でフィリピン、ブラジル、ペルー、中国など

(2) 当該自治体における外国人児童生徒等の受け入れ・指導体制

御殿場市雇用の外国籍児童生徒適応教室指導員が3名

（ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語）がいて、日本語指導が必要な子どもの支援をしている（御殿場朝日小では週5回取り出し）

市内小学校1校に加配教員が1名配置

(3) 外国人児童生徒等教育に関わる教員（一般教員を含む）、支援員の教育力の課題

外国にルーツを持つ子どもたちと保護者への対応のしかた

発達の問題か日本語の力の問題かの見極め

どのように日本語指導をしたらよいか

文化の違いについて

3 研修・授業の成果について

(1)（受講者アンケートより）

①受講者の研修への期待（アンケートのIより）

子どもや保護者への対応のしかたを学びたい

どのように日本語指導をしたらよいか
子どもの困り感に対する支援方法を知りたい
学習についての有効な指導方法

②受講者の研修内容の理解度・満足度（アンケートのⅢ①より）

研修内容の理解度、満足度は「ほぼ一致」「だいたい一致」が多数

③関心を高め、教育力の向上を促したと考えられる内容・活動（受講者アンケートⅢ②の回答より）

家庭において母語でコミュニケーションすることの大切さ
生活言語と学習言語のちがい
子どもの不安感、困り感を軽減するために、子どもの気持ちや状況を理解する
在籍学級での支援の仕方

④受講者が今後に望む研修・授業の内容と活動（受講者アンケートⅣより）

困り感を持つ担任の実例とその支援方法
日本語の力の問題か、発達の力の問題かの見極め方
授業の理解に問題のある子への支援方法
卒業後の進路とどのような支援が必要か具体的な事例紹介

(2) 研修企画の立場から見た、研修の成果と課題（企画者アンケートⅢの回答より）

(成果)これまで外国人児童生徒支援について経験のない教員は基本的な知識（生活言語と学習言語のちがい等）、経験のある教員は外国人児童生徒の指導が理解に時間のかかる日本人の児童生徒の指導にも生かせることが理解できた。
(課題)研修対象者の外国人児童生徒教育に対する理解に温度差があると、テーマ、研修内容を絞ってのカリキュラムを作成することが難しく、満足度にも差が出てしまう。

4. モデルプログラムについて

(1) 養成・研修内容構成（報告書 pp. 72-76）について（意見）

- ・追加が必要な項目はないか。
どの項目を選択するか迷ったものもあるが、あまり項目がありすぎでもかえって迷うので、現状でよいと思う。
- ・項目の構成（配置・カテゴリー化）は適当か
「*現職者向け研修で取り扱う」は支援者向け研修で触れてもよい項目だと思う
（たとえば⑩発達障害、学習障害）
- ・項目の数や具体性は適当か。
今回カリキュラム作成に使用する項目に関しては内容を選ぶ際に迷うものもあったが（⑧保護者との連携）、具体性についてはあげるときりがないと思う。
モデルプログラム例があるので、迷った場合はそれを参考にすればよい。

(2) モデルプログラム（報告書 pp. 207-244）について（意見）

- ・90分程度のモチーフ型のプログラムは、選択・組み合わせがしやすかったか
選択・組み合わせはしやすいが、モデルプログラムを使うために、短時間に

内容を盛り込みすぎてしまった。

- ・モデルプログラムは実施カリキュラム作成時に、参考になったか。
研修のたたき台を作るのに一から考える必要がなく、組み合わせるだけで容易に作成できる。
- ・講義・活動・フィールドのバリエーションは、活動を考える上で役立ったか。
モデルプログラム例にバリエーションの記載があるので、3つの中から選択するのが容易だった。

(3) モデルプログラムの活用で研修の運営が円滑になったか。

- ・現場の課題と研修内容を関連付け、受講者に目的を伝えやすくなったか。
現場の課題と類似する項目をモデルプログラムから選択し、その項目にある研修内容を盛り込んだ目的を設定することで受講者にもわかりやすく提示できた。
- ・企画者と講師間で研修運営についての考えを共有しやすくなったか。
モデルプログラム表の領域、内容、項目例を見ながら相談することで、研修内容や進め方について両者の考えを共有しやすい。
- ・複数回の研修の場合には、各回の関連付けがしやすくなったか。

(4) モデルプログラムの活用を通して、研修・養成で、どのような力を高めてほしいか。あるいは、高めるためには、どのような活用の仕方が必要だと思うか。

- ・学校から一人研修会に参加した場合は、研修で学習した内容を自校に戻って他の教員にも伝え、共有する。そうすることで自分の振り返りにもなり、今後の教員としてのキャリアに生かせる。
- ・校内研修で実施した場合は、研修後のある時期に校内でミーティングをして実際に受けた研修内容を現場でどれだけ生かしているかお互いに発表しあう。
ミーティングができない場合は、事後アンケートでの振り返りを行う。
その際、研修内容をまだ生かしていない場合は自分への働きかけになる。